

加茂市立図書館坪谷関係資料とその意義

吉田昭子(慶應義塾大学大学院文学研究科)
a-yosida@comp.metro-u.ac.jp

1 はじめに

(1) 坪谷善四郎の略歴

坪谷善四郎は文久2年(1862)2月、新潟県加茂町に生まれた。水哉と号し、昭和24年(1944)3月にその生涯を終えた。

坪谷善四郎の生涯については、加茂町立図書館後援会刊行の『水哉坪谷善四郎先生傳』¹⁾が詳しい。博文館の大橋佐平に請われて、東京専門学校(現早稲田大学)在学中から博文館に勤務し始め、編集局長、取締役や、私立大橋図書館長を務めた。さらに坪谷は、明治34年から大正11年まで東京市議会議員としても活躍した。明治37年に、東京市議会において、東京市立図書館設立を建議可決し、明治41年の東京市立日比谷図書館(現東京都立日比谷図書館)開館のきっかけを作った。大正7年には日本図書館協会会長に就任し、昭和16年6月には紺綬褒章を受賞している。坪谷の表彰歴は昭和16年8月の『図書館雑誌』²⁾に記載されている。

(2) 加茂市立図書館と坪谷善四郎

坪谷は少年時代の苦学の経験に基づき、加茂町立図書館事業の振興に力を注いだ。大橋図書館や東京市立日比谷図書館開館の経験をもとに、加茂にも郷土文化の向上に寄与する図書館を設立しようとした。実際に坪谷が望むような本格的な町立図書館が竣工したのは、昭和15年であり、34年を要した。現在の加茂市立図書館が平成3年に新

築された際、旧図書館建設の功労者である坪谷善四郎を顕彰するため、坪谷文庫が設けられた。これとは別に、坪谷の自筆日記や原稿類、名士書簡類等の坪谷関係資料類が保存されている。現在は未整理の状態であるが、これらは図書館史を研究する上で、非常に重要な資料である。

本稿では、この加茂市立図書館所蔵の坪谷関係資料類の概略を報告し、その図書館史研究の上での意義について論じる。

2 加茂市立図書館所蔵坪谷関係資料概略

坪谷関係資料は、自筆日記、雑稿、加茂町立図書館寄贈台帳、写真集・アルバム、回顧録、遺品(名士の書簡類)、絵葉書集、色紙、折本等に分けられる。表1に調査にあたって閲覧することのできた資料の数を記した。

種類	資料数
自筆日記	54
雑稿類	40
加茂町立図書館寄贈台帳	5
写真集・アルバム・旅手帖	32
回顧録	8
絵葉書集	13
色紙、折本等	43
坪谷遺品(名士の書簡類)	不明 封筒10袋

表1 坪谷関係資料種類と資料数

(1) 自筆日記

坪谷善四郎自筆日記は、明治29年を欠くものの、明治26年から昭和22年までが揃っている。ほとんどは当用日記を使用し、1年1冊、毛筆とペン字で書かれている(図1)。明治26年の日記は「わが家の歴史」という小型の日記帳を用いており、昭和20年以降はノートなどを用い、事務的な記録が中心になっている。



図1 自筆日記

(2) 雑稿類

『水哉雑考』と題した和綴本で、第1～34冊、別冊第1～3冊等が残されている。自筆の原稿類や雑誌類に書いた記事を自ら切り抜いて集めたものである。

(3) 加茂町立図書館寄贈台帳

加茂町役場の坪谷善四郎寄贈図書送付簿や書類綴等の台帳類(図書と雑誌の寄贈に関する記録)である。図書寄贈は明治39年に始まるが、ここでは大正年間から昭和15年の時期の台帳がある。(図2)



図2 寄贈台帳と水哉雑稿

(4) 写真集・アルバム・旅手帖類

坪谷は旅を好み、日本全国、東西両半球を旅行した。明治39年9月から同40年3月には、世界一周でアメリカ、カナダ、ヨーロッパ、ロシア、満州などを漫遊した。

坪谷は明治33年から写真を始め、自ら撮影した写真類を、旅行関係資料(写真集やアルバム類)としてまとめている。

(5) 回顧録

昭和21年の日付のある『回顧八十五年』は和綴で8冊からなる。毛筆で記され、構成は、第1編(生誕から結婚まで)第2編(壮年時代、東京専門学校、博文館勤務時代)第3編(博文館成立10周年)第4編(日清戦争前後)第5編(東京市政熱中時代)第6編(波瀾時代)第7編(大橋図書館復興時代)第8編(晩年)となっている。坪谷の新潟や東京等での活動が綴られている。

(6) 絵葉書集、色紙、折本等

外国から送られた絵葉書類等も集めて絵葉書集にしたものや坪谷所蔵の色紙や折本類が残っている。

(7) 名士書簡類

坪谷関係の名士書簡類は、10袋に分けられて保存されている。加茂市立図書館の職員により、仮一覧表が付されているが、総数および個々の手紙の詳細は不明である。坪谷をめぐる人脈、交友関係等の研究にとっては、第一級の大切な資料である。

3 坪谷関係資料に見る図書館関係の業績

坪谷の図書館関係の業績を坪谷関係資料の記述の中から取り上げる。概略(5)『回顧八十五年』の第5編には、「東京市立図書館の由来」と「加茂市立図書館の由来」と

題した図書館関係の事績についての記述がある。

(1) 東京市立図書館の由来

昭和10年12月の『図書館雑誌』³⁾に掲載された同名の文章を簡略化したものである。東京市立図書館設立に関し、自ら2つの業績をあげている。

1つは、明治37年3月、東京市議会議員として通俗図書館設立の建議を提出通過、同39年7月、東京市立通俗図書館設立予算を決議、同41年11月16日に日比谷図書館落成にこぎつけたことである。坪谷は明治39年10月、江戸名所図会ほか、55種87冊を日比谷図書館に寄贈した。

もう1つは、大正4年12月、大正天皇即位の際に下賜された金10万円の利子をもとに、江戸に関する文献の収集を提案したことである。江戸時代の制度、風俗、風景、習慣等を詳記した文書が必要であり、これを絵にしたものがさらに必要であると提案している。これにより、浮世絵、絵図、随筆等の資料が大礼記念図書として収集されることになった。

(2) 新潟県立加茂町立図書館の由来

郷里にも図書館を設立しようと考えた坪谷は、明治39年1月に加茂町長に図書館設立を申請し、同年4月、図書721種、948冊を寄付している。その後も引き続き図書や雑誌を寄付し、その功績に対して、大正8年2月、賞勲局から銀杯を賞賜されている。

これらの活動は、自筆日記の記載で確認することができる。たとえば、明治39年の日記には、1月27日 加茂町長笠原永昌

へ図書館寄付申請 2月12日 加茂町長
へ図書館図書寄付願出を送る 4月5日
加茂町長へ第1回図書721種948冊贈る。価格241円98銭 7月24日 東京市立図書館市会委員会確定 7月28日 同市会図書館設立確定 9月24日 町立加茂図書館開館寄贈などの関連項目が見られる。この年の10月21日は自宅で、加茂と日比谷への寄贈図書準備をしており、10月23日に東京市立日比谷図書館へ『江戸名所図会』外を寄付したと記載されている。

4 坪谷関係資料の内容と特色

坪谷の日々の活動をたどることができるのが、坪谷自筆の日記である。これらの日記は、備忘録の性格を持っており、坪谷の海外旅行中は代理の人物が書いている。

1冊ずつの巻頭には、該当年の重要事項が書き出されている。重要な出来事には、項目に赤丸を付している。この丸は本文にもつけられ、日記の巻頭に校了と書かれているものもある。本人による日記の校正が行われているわけである。日記を図書館に寄贈したことと併せ、坪谷は日記が今後多くの人の目に触れ、歴史的事実を検証するための資料として活用されることを意図していたと考えられる。

『回顧八十五年』第6編には、「新潟県の図書館大会」と題した文章がある。大正7年6月に郷里の新潟県で開催された第13回全国図書館大会では、終了後に徳川頼倫侯に随行して加茂を訪問したことが書かれている。徳川侯と坪谷を、加茂駅に有力者十数人が出迎えたものの、坪谷は案内すべ

き図書館がないことに頗る困惑し、町の青海神社を参拝し、同境内の公園を散策、その夜は新潟に泊まったと書いている

他方、大正15年5月の『図書館雑誌』所収「北越各地随行の追憶」⁴⁾の中の「加茂図書館の光栄」と題した文章では、徳川侯が坪谷の郷里、加茂町立図書館に臨まれ、同時に青海神社を訪れたとある。加茂町立図書館は、蔵書数僅に3000冊位で小学校内に付設した極めて小規模な図書館で、坪谷の寄付で成り立っていると説明している。

『水哉坪谷善四郎先生傳』によると、当時、加茂町立図書館は実は名ばかりで運営されていなかった。当初、加茂尋常高等小学校に設けられ、同校の職員以外に利用者はほとんどなかった。さらに、同校の都合で、同町の大昌寺や加茂南小学校に移転された。寄贈資料は厄介扱いされたばかりでなく、この間に資料の散逸も生じていた。実情を知らず、徳川侯を加茂に案内した坪谷の面目はつぶれてしまったのである。

『図書館雑誌』に執筆するにあたり、徳川侯への配慮と坪谷自身の立場から、実際は案内できなかった加茂町立図書館を訪れたことにせざるを得なかった坪谷の複雑な心中は、『回顧八十五年』や『水哉坪谷善四郎先生傳』の記述から見て取れる。

坪谷はこの経験であきらめることなく、独立した町立図書館の建設を加茂町に申請する。図書の寄贈だけではなく、加茂町立図書館建設資金として、現金1万円の寄付を行う。こうした努力を経て、ようやく昭和16年4月に町立図書館が開館するのである。

図書館後援会が組織され、伝記『水哉坪谷善四郎先生傳』が刊行された。

5 坪谷関係資料の意義と今後の課題

これまで見てきたように、坪谷関係資料は豊かな内容を持ち、大橋図書館や東京市立図書館をはじめとする、わが国図書館史研究の第一級史料である。新たな史実も見いだされるだろうし、加茂町訪問の例のように、史実の訂正も予想される。

『水哉坪谷善四郎先生傳』は、刊行に際し、坪谷の日記や雑稿類、坪谷自身の言葉を参考にしたと考えられる。しかし、その後のわが国図書館史研究で、同資料が参照された形跡はない。資料自身、未整理のままである。

今回は、坪谷関係資料の概略を報告したが、今後も書簡類を含めた坪谷関係資料の調査や検証を続け、坪谷が図書館史上に果たした役割を明らかにしていく予定である。

引用文献

- 1) 加茂町立図書館後援会編. 水哉坪谷善四郎先生傳. 加茂町, 加茂町立図書館後援会, 1949.
- 2) “受彰十有五回: 坪谷翁の紺綬褒章拝受まで”. 図書館雑誌. 35年8号, 1941, p.52.
- 3) 坪谷善四郎. “東京市立図書館の由来”. 図書館雑誌. 29年12号, 1935, p.417-419.
- 4) 坪谷善四郎. “北越各地随行の追憶”. 図書館雑誌. 80号, 1925, p.13.